

本校学習指導案について

第〇学年 ESD（〇〇科）学習指導案

2 児童の実態

3 ESD の視点に立った学習指導について

(1) 教材について

教科・領域のねらいや、それに関わる児童の活動について記述している。

(2) 持続可能な社会づくりとの関連

本単元の学習内容とESDの構成概念との関わりを担当がどうとらえ、授業をデザインしているかを記述している。

これは、「持続可能な社会作りの構成概念」のうち、「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」「Ⅲ連携性」に当たると考えている。

「持続可能な社会作りの構成概念」についてはP 6 参照

(3) 本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

＜さまざまな人や社会、自然などのつながりを尊重する態度＞

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて、主体的・計画的に取り組む態度＞

「白方小学校版 ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」（P 10 参照）を本単元の児童の具体的な姿で記述し、それらの能力・態度を育てるための手立てを記述している。

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

①

4 単元の目標

春からの町探検をふりかえり、自分の心に残った地域のひみつを伝えたいという思いを持ち表現する方法を考えたりまとめたりする活動を通して、地域の良さや身近な人々と関わる楽しさがわかり、進んで交流することができる。

「白方小学校版 ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」に関わり、本来の単元の目標に加えて新たに設定した部分に下線を引いている。

「白方小学校版 ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」に関わる評価規準に下線を引いている。

5 指導計画と評価規準（総時数 10 時間）

本単元に関わる前単元名			関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
次	時	学 習 活 動	関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
1	1 2	春からの町探検を作品や写真などから振り返り、伝える相手と伝えたいことを決める。	春からの町探検を振り返り、自分の心に残った地域の出来事を友達と伝え合っている。	<u>地域での活動を通して、自分の心に残った地域の出来事を振り返り、伝える相手を考えて、伝えたいことを決めている。＜つながり＞</u> <u>＜主体的・計画的＞</u>	

6 ねらい

自分の作品を使って、見つけたまちのひみつを伝え、地域の良さを知ってもらい楽しさや周りの人と関わることの楽しさに気づくことができる。

7 指導過程

過程	学 習 内 容 ・ 活	
導 入 活 動 振 り 返 り	1 本時のめあてをつかむ。	「白方小学校版 ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」に関わり、新たに設定したねらいの部分に下線を引いている。 なお、「総合的な学習の時間」の授業案については、そのねらいや内容が「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」と重なる部分が多いため、「単元の目標」「指導計画」「(本時の)ねらい」等に下線を引いていない。 とを知らない人に白方のひみつを伝えるという相手意識を持たせる。 *何人の人に伝えるか、どのように伝えるかを考えさせ自分で決めさせることにより、自分で目標を設定させる。 <主体的・計画的> 「*ESDの視点に立った留意点」を明示するための表記
	まちのひみつをつたえよう。	
	2	
	3 (1)	
	4 振り返りをする。	

本校では、本来の「ねらい」が定まっている各教科等においてESDの視点に立った学習指導を進める場合、次のような手順で「学習指導案」を作成していくことにしました。

- 1 その単元で児童に身につけさせたい「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を決める。それは、学年のテーマとの関連で、4項目(白方小学校版)全てでも構わないし、重点として絞っても構わない。検討に際しては、単元の学習内容はもとより、ESDカレンダーで他教科等・他単元との関連を確認する。
- 2 その教科等や単元本来の優先すべき「単元のねらい」と「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」を合体させ、新たな「単元の目標」を設定する。
- 3 本時の授業のデザインに際しては、本単元で児童に身につけさせたいとして設定した「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」のうち、本時の授業で扱うものを決め、その能力・態度を育てるための効果的な方策を工夫する。

そして、これらの内容や意図が「学習指導案」に記述されるわけですが、それが授業者にも参観者にもわかりやすい学習指導案の形式やプロットはどのようなものなのか、ESDの学習指導案に述べるべき必要十分な内容は何か、「学習指導案」の形式一つとってみても課題は多いと考えます。

1 単元名 「つたわる 広がる わたしの生活」～わたしたちのまちのひみつをつたえよう～

2 児童の実態

児童は、生活科の時間を楽しみにしている。春から行ってきた「まちたんけん」では、いろいろな場所に探検に行くのを楽しみにし、行った先でもさまざまな発見をしてくる児童が多い。また、探検後のまとめでは、自分なりに考えた方法で見つけたひみつをまとめたり伝えたりすることができた。しかし、探検先で聞いたことをメモに取ることがまだ難しく、探検には意欲的にいくものの、帰ってきた後で見つけてきたひみつを思い出して書くことが難しい児童や、まとめる段階で何を伝えたらよいのかわからなくなってしまう児童もいる。このようなことから、自分が知りたい、伝えたいという思いを大切にし、自分の思いを自信をもって表現することができるよう取り組んでいるところである。

3 ESD の視点に立った学習指導について

(1) 教材について

本単元は、今までの学習を振り返り、気づいた地域の良さについて伝え合う活動を行い、互いのことを理解し合ったり、心を通わせたりしてかわることを楽しさが実感としてわかり、身の回りの人々と進んで交流できるようにすることを目指している。

児童は、春に笹原川の千本桜、6月に図書館や給食センターなどの公共施設やその付近、夏休みに家の近く、そして9月に学校周辺と、地域の様々な場所を探検してきた。一連の町探検を通して、自分たちが住んでいる地域について知り関心を持ったり、地域にある場所や住んでいる人などの素敵などところへ気づいたりすることができた。そこで、今までの学習を振り返り、自分の心に残った地域の場所や出来事、人などについて、感じたことや気づいたこと、わかったこと、考えたこと、もっと知りたいと思ったことなどを自分なりの方法でまとめ、交流する活動を行う。学習の過程の各段階で、友達と交流する活動を取り入れ、お互いの良いところを認め合ったり、アドバイスし合ったりすることで、自分の思いを自信をもって表現したり、進んで交流したりすることができるようになると考える。

(2) 持続可能な社会づくりとの関連

児童にとって、今住んでいる場所は将来「ふるさと」となる場所である。町探検を通して見つけたり感じたりした地域の良さは、3年生以上で学習する総合的な学習の時間の学習の基礎となり、さらに発展していくものと考え。自分が住んでいる地域には豊かな自然があるとともに温かい人々がいること、みんなで大切に守っているものがあること、地域の人々が関わり合って生活していることなど自分が育った地域の良さを知ることは、児童の誇りとなり、将来にわたってずっと大切にしたいものとして残っていくと考える。大切にしていきたいという思いはそのために自分ができることを考え実行していく力につながるだろう。

なお、本単元を含める「まちたんけん」の学習では、地域の自然が豊かな場所や公共施設など、様々な場所を訪れ、さらに自分が行ってみたい場所を選んで探検を行う。その活動を通して、児童は、今まで知らなかった様々な発見をすることだろう。探検後に自分が見つけたひみつを友達と伝え合う活動を行うことにより、地域にはいろいろな場所や自然があることや、いろいろな人がいること、昔から大切にしてきたものや人と人とのつながりがあることなどに気づかせたい。これは、「持続可能な社会作りの構成概念」のうち、「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」「Ⅲ連携性」に当たると考えている。

(3) 本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

自分の思いや考えを友達に伝えたり聞いたりして、良いと感じたことやもっと良くするために気づいたことなどを、相手に伝えたり受け止めたりする力

＜さまざまな人や社会、自然などのつながりを尊重する態度＞

町探検で出会った場所や人、出来事などを思い出し、その中から自分が伝えたいことを考えたり、地域の良さに気づいたりする力

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて、主体的・計画的に取り組む態度＞

伝える相手に合わせて、伝えたいことを考えたり工夫してまとめたりしようとする力

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

- ① 探検の写真や自分がまとめたものなどを使って春からの町探検を想起させるとともに、すてきだなと思ったことや心に残っていることなどを友達と交流させることにより、「伝えたいこと」は何かを考えさせる。
- ② まとめ方をいくつか提示することにより、自分に合った方法でまとめられるようにする。
- ③ 相手意識を持たせるため、誰に何を伝えたいのかを考えさせ、まとめたり発表の練習をしたりさせる。
- ④ 発表は、児童同士で練習をさせ、まず他学年の児童に伝える機会を設定する。その後、白方を知らない大人の人に発表するようにさせる。発表を聞いてもらった人に、伝わったかどうかの簡単な評価と感想を書いてもらうカードを用意し、自分が行った活動の足跡を残すようにする。

4 単元の目標

春からの町探検をふりかえり、自分の心に残った地域のひみつを伝えたいという思いを持ち表現する方法を考えたりまとめたりする活動を通して、地域の良さや身近な人々に関わる楽しさがわかり、進んで交流することができる。

5 指導計画と評価規準（総時数 10時間）

本単元に関わる前単元名	関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
4～6月 8時間 『どきどきわくわくまちたんけん』	<u>身近な地域の人々や様々な場所に関心を持ち、探検の計画を立てたり、「まちのひみつ」を見つけていたりしている。</u> ＜主体的・計画的＞	行きたい場所を決め、相手や場に応じた適切な行動や安全な行動について考えて探検をするとともに、見つけたひみつを自分なりに表現し、交流している。	地域には様々な場所があり、多様な人々が働いていることが分かり、 <u>それらと自分の生活との関わり</u> に気づいている。 ＜つながり＞
6月 5時間 『みんなであそぼうまちのしせつ』	<u>身近な公共施設に関心を持ち、ルールやマナーを守って探検したり、施設を支える人々と関わったりしている。</u> ＜つながり＞	公共施設はみんなが使うものであり、みんなが気持ちよく使えるようにするためのルールやマナーがあることを考えて探検し、そこで見つけたひみつを自分なりに表現している。	公共施設には、みんなのためのルールやマナーがあることや、そこで働いている人たちがみんなのために仕事をしたり工夫したりしていることに気づいている。
夏休み 『じぶんのいえの近くをたんけんして、まちのひみつを見つけてこよう。』			
8月～10月 13時間 『もとなかよし まちたんけん』	<u>夏休みに見つけたまちのひみつに関心を持ち、自分が行きたい場所を選んで探検したり、地域の人と進んで関わったりしている。</u> ＜つながり＞	<u>いきたい探検場所を決めてそこに合わせて計画を立てたり、行った場所や人々に話を聞いてわかったことなどを自分なりに表現したり、交流したりしている。</u> ＜交流と協力＞	<u>地域で生活している人々の、地域への思いや大切にしているものなどに気づいている。</u> ＜つながり＞ 地域の良さや、人々と適切に接することができるようになった自分たちの良さに気づいている。

次	時	学 習 活 動	関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
1	1 2	春からの町探検を作品や写真などから振り返り、伝える相手と伝えたいことを決める。	春からの町探検を振り返り、自分の心に残った地域の出来事を友達と伝え合っている。	<u>地域での活動を通して、自分の心に残った地域の出来事を振り返り、伝える相手を考えて、伝えたいことを決めている。</u> ＜つながり＞ ＜主体的・計画的＞	
2	3 4 5 6	伝えたいことをまとめる方法を考え、自分なりに工夫してまとめる。		これまでの学習を振り返り、伝える相手や内容などを考えて、自分なりに工夫して表現している。	
3	7 8	自分の作品を使って、発表の練習をする。	自分の作品を使って、多くの友達と交流している。	<u>伝えたいことが伝わるようにするために、表現方法を自分なりに工夫し、進んで友達と交流している。</u> ＜交流と協力＞	
	9 本 時	自分でめあてを決め、自分の作品を使って、まちのひみつを伝える。	<u>自分が伝えたいまちのひみつを、伝えようとしている。</u> ＜交流と協力＞		地域の良さを伝えている自分の成長に気づいたり、 <u>地域の良さを知ってもらい楽しさに気づいたり</u> している。 ＜つながり＞
	10	お世話になった地域の人に、お礼の手紙を書き、自分が見つけた地域の良さを伝える。	感謝の気持ちや自分の思いが伝わるように、ていねいに手紙を書いている。	<u>手紙の相手との関わりを思い出し、自分の思いが伝わるように、表現している。</u> ＜つながり＞	

6 ねらい

自分の作品を使って、見つけたまちのひみつを伝え、地域の良さを知ってもらい楽しさや周りの人と関わることの楽しさに気づくことができる。

7 指導過程

過程	学 習 内 容 ・ 活 動	時間	○ 指導上の留意点 * ESDの視点に立った留意点 ・ 評価<ESDで重視する能力・態度>
導 入	1 本時のめあてをつかむ。 ㊦ まちのひみつをつたえよう。	2	○ 授業を参観している人たちについて説明し、白方のことを知らない人がほとんどであることを知らせ、白方のことを知らない人に白方のひみつを伝えるという相手意識を持たせる。
活 動	2 自分で今日のめあてを考える。 ・ ○人以上の人に ・ 大きな声で ・ 伝わるようにはっきり ・ 伝わるまで など	5	* 何人の人に伝えるか、どのように伝えるかを考えさせ自分で決めさせることにより、自分で目標を設定させる。 ＜主体的・計画的＞
	3 自分が見つけたまちのひみつを作品を使って伝える。 (1) 友達とペアで伝え合う。	30 (5)	○ 友達と伝え合う活動をさせることにより、自分の発表の練習をさせ、話すことに自信を持たせる。 ○ 子どもたちだけでなく、参観している大人にも分かるように活動の仕方を説明し、活動させる。
	(2) 参観している大人の人に、伝える。 ・ ペアで伝えに行く。 ・ 一人で伝えに行く。	(25)	○ 知らない大人の人に話しかけることへの抵抗を少なくするため、最初だけ伝え合いをしたペアと一緒に伝えに行っても良いことにする。 ○ 評価カードには、めあてに対する評価や感想を書いてもらうようにする。また、簡単に短時間で記入することができる形式にする。
			* 評価してもらう項目欄に、自分のめあてに関わる項目を記入させ、評価と感想を書いてもらうようにお願いさせる。 ＜主体的・計画的＞＜交流と協力＞ ・ 自分が伝えたいまちのひみつを伝えようとしているか。(発表) ＜交流と協力＞
振 り 返 り	4 振り返りをする。 (1) 発表を聞いてもらった人に書いてもらったカードを読み、伝えたいことを伝えることができたか、自己評価する。 (2) 今日の学習を通して、感じたこと、考えたこと、思ったことなどを書く。	8 (3) (5)	○ 書いてもらったカードを元に、自分が伝えなかったことが伝わったかどうかを自己評価させ、がんばったところやうまくいったところに気づかせる。 ○ 早く書き終わった児童から感想を交流させ、自分の成長や地域の良さを知ってもらう楽しさに気づかせる。 ・ 地域の良さを伝えている自分の成長に気づいたり、地域の良さを知ってもらう楽しさに気づいたりしているか。 (ワークシート・発表) ＜交流と協力＞

1 単元名 「わたしたちの県 ① 県の広がり」～調べよう、気づこう、福島の特徴と環境～

2 児童の実態

本学級の児童は、社会科の学習に意欲的な児童が多く、身近な社会的事象についての気づきが積極的にできる。しかし、興味・関心を持ったことをどう調べるのか、また、自分の生活や他の事象との関係はどうなっているのかといった学習の深化・広がりについては、まだ見通しを持てずにいる児童もいる。3年時の社会科の学習においては、興味・関心を高めることを重視し、「知りたいこと」を持ち調べていく授業を行ってきた。4年時は、「疑問点に対しての予想」を立て、調べていく形式で授業を進めている。課題発見から調べ学習の進め方、記録・まとめの方法など、個人差が大きいが、ペアや班での学習や伝え合う活動を通して、力を高められるよう取り組んでいるところである。

3 ESD の視点に立った学習指導について

(1) 教材について

本単元では、自分たちの県の物理的位置、県全体の地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置などに興味・関心を持ちながら、自分たちの住む県の特徴を考えていくことをねらいとしている。地図帳や教科書の図から調べたことを白地図に表したり、地図や収集した資料から調べたことをまとめたりする作業的な学習を通して、自分たちの住む県の特徴やよさについて具体的に考えることができる単元である。

(2) 持続可能な社会づくりとの関連

身近な地域や市から視野を広げた学習の第一段階が、本単元「わたしたちの県」である。高学年で学ぶ日本および世界へ目を向けるためにも重要な意味を持つこの学習では、まず、課題を見出す力を育てたい。そのために、児童の多様な疑問や感想から、課題設定につなげる過程を重視していく。人を取り巻く環境として、自分たちの住む県の自然・産業・経済等の在り方に関心を持ち、それらが深くかかわりあって存在することの意義や難しさなどを多面的に考えられるよう学習を進めていきたい。これは、構成概念の「Ⅰ多様性」「Ⅱ相互性」にあたる。さらに、見出した課題を解決するために必要な態度を身に付けることをめざしていく。資料を活用し、人々が互いに連携・協力し生活していくことの大切さに気づかせていきたい。構成概念「Ⅴ連携性」と深く関連するものである。

これらの関連を考慮し学習を進める中で、環境について、今後どんな視点を持つことや生き方が必要になるのかといった長期的・将来的な見方も育てていきたいと考える。

(3) 本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

県の特徴について、既習の内容や自分の知識と関連付けて考えたり、情報を選択しながら調べたりして、自分なりにまとめようとする力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

自分の考えを持ち、それを表現する力。友達の意見を聞いたり交流したりし、よりよい考えを生み出そうとする態度

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

自分たちの県の自然や特産物と、それを支える人々の生活に関心を持ち、自分の地域や生活を大切にしようとする態度

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

- ① 調べる項目を明確にしたうえで、見通しを持って資料や文献にあたるようにし、課題解決に向けて焦点化した調べ学習が進められるようにする。
- ② 個別の学習に入る前に、既習の内容や知識との関連に気づけるよう、全体での話し合いを設定し、見通しにつなげられるようにする。
- ③ 土地利用の工夫、産業の特徴、交通すべてにかかわる人々の工夫や思いに気づき、自分の言葉で表現する場を設定し、より具体的に自分の地域を大切にしようという心情につなげる。

4 単元の目標

<関心・意欲・態度>

- ・ 自分たちの住む県の様子に関心を持ち、名称や位置、地形や産業、交通網などについて意欲的に調べ、その特色を考えようとしている。

<思考・判断・表現>

- ・ 県の様子について、既習の知識との関連や、他県との関連などから特色を考え、適切に表現している。

<観察・資料活用<技能>

- ・ 何を活用したらよいかを考え、必要な情報を選択・収集し、県の様子について読み取っている。
- ・ 調べたことをよりわかりやすく表す方法を考え、地図や作品にまとめている。

<知識・理解>

- ・ 県の物理的位置、地形や主な産業、交通網の様子や主な都市の位置を理解している。
- ・ 自分たちの県の特色とそれを支える人々について理解している。

5 指導計画と評価規準（総時数 8時間）

時	学 習 活 動	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用<技能>	知識・理解
1	自分たちの住む福島県について話し合い、学習課題を作る。	県の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。	県の様子について、 <u>課題や自分なりの予想を考えている。</u>		
2	福島県の地形とその特色について調べる。			地図や資料を活用して <u>必要な情報を集め、県全体の地形をまとめている。</u>	
3	地形によって、土地の使われ方がどうちがうのか、予想を立てて調べる。		県の土地利用の特色について、 <u>既習の内容と関連付けて考え、表現している。</u>	資料やインターネットを活用し、県の地形と土地の使われ方をまとめている。	
4	福島県には、どんな市や町があるのか、その位置と特色を調べる。				県内における自分たちの市や、県内の主な都市の位置を理解している。
5	福島県の市や町と産業について調べる。	<u>各自の学習課題にそって、県の主な産業に関心をもち、調べようとしている。</u>		県内の主な産業とその場所について情報を集め、 <u>地図に適切に表している。</u>	
6 本 時 ・ 7	県内の交通の広がりとその理由について調べる。		交通の広がり地域<特色について既習の内容と関連付けて考え、表現している。	<u>必要な資料や情報を選択し、交通の広がりについてまとめている。</u>	
8	福島県の特色について地図にまとめる。			<u>よりわかりやすい方法を考え、調べたことを地図に表している。</u>	県の地形や土地利用、交通、産業について、 <u>人々の生活と関連付けて理解している。</u>

6 ねらい

高速道路や鉄道などのつながりを地域の特色や地形と関連させて調べる活動を通して、県内の交通の広がりとその理由を考えることができる。

7 指導過程

段階	学 習 内 容 ・ 活 動	時間	○ 指導上の留意点 * ESD の視点に立った留意点 ・ 評価<ESD で重視する能力・態度>
導入 展開	1 めあてをつかむ。 県マップにたりないものは ・ 道路 ・ 駅 ・ 鉄道 ◎ 高速道路を作ろう 「(る計画を立てよ)」	5	○ 前時までの学習を表した県マップを用いて、調べてきたことを確認する。 * 土地の様子、市町村名、特産物を確認することで、次の活動の視点につなげられるようにする。 <多様な観点と見通し>
	2 見通しをもつ。 ・ どこに作るのか ・ なぜ、そこを選ぶのか ・ 選んだ理由の妥当性は	5	○ 利便性や個人の利益のみではなく、公共交通の必要性という理由に目を向けられるようにする。 * 予想される場所や理由の大筋を全体で確かめることで、個人での思考が難しい児童も見通しを持てるようにする。 <多様な観点と見通し>
	3 調べる。(建設計画を立てる) (1) 自分の考えをワークシートに書く。 ・ 考えた場所とその理由 ・ 建設のための課題と解決法 (2) グループを作り、話し合う。 ・ 課題は何か ・ 解決法 ・ 検討と修正 ・ 建設計画の完成 (3) 建設計画を発表する。 ・ 考えた場所と理由の共有 ・ 解決法の妥当性 ・ 地域の特色との関連 (4) 実際の交通網を知る。	35	○ 話し合いの視点が明確になるよう、ワークシートの項目を精選する。 ○ 建設に向けて予想される課題を考えることにより、土地利用の様子や人々の思いに気づけるようにする。 * 課題解決のために必要な情報を調べるための手段を確保し児童の要望に応えられるようにする。 <多様な観点と見通し> ○ 他のグループの活動を随時紹介し、意欲的に資料や情報の収集にあたれるようにする。 ○ 建設のために必要な材料や費用、期間、労力について気づけるよう、資料・情報を準備する。 ・ 自分の考えをワークシートに書き、友達と話したり調べたりする活動を通して、交通の広がりとその理由について考えることができたか。(発表・ワークシート) <多様な観点と見通し><交流と協力> * 実際の交通網を発表し、次時への学習内容へとつなげる。 <多様な観点と見通し>
終末	4 確かめる。 (1) 実際の交通網とグループの計画とを比較する。 (2) 交通の役割と人々の暮らしについて、考える。	30	* 実際の高速道路網と鉄道網と、自分たちの計画との相違点比較を通して、交通の役割や地域の特色との関連について考えられるようにする。 <多様な観点と見通し><つながりの尊重> * 利便性だけでなく、土地や家屋等の現状に着目し、将来的に環境を守っていく大切さにも気づけるようにする。 <多様な観点と見通し><つながりの尊重>
	5 まとめをする。 ・ 高速道路の役割、地域の特産物、支える人々の思いについて、自分なりの考えを書く。	15	○ 数名に考えたことを発表させ、個の気づきを全体で共有できるようにする。 ・ 実際の交通網との比較を通して、交通の広がりとその理由について、考えを深めることができたか。(発表・ワークシート) <多様な観点と見通し><つながりの尊重>

1 単元名 「白方から世界へⅡ アメリカ・ビデオレタープロジェクト②」

2 児童の実態

本学級の児童は、昨年度にネパールと交流していた6年生の活動を間近で見ており、外国の人と交流してみたいという意欲の高い児童が多い。1学期には、シカゴ市にあるナマステ小学校からのビデオレターを見て、中学校の英語科教員やALTの協力を得ながら返信ビデオレターを作成した。それまでは外国を遠い存在だと思っていた児童が多かったが、交流を通し、外国が近い存在に感じたり、自分も友達になりたいと思ったりした児童もいた。しかし、前回の交流はお互いに「学校や地域の紹介」にとどまっており、「自分が学習したことや考えたこと」を伝えたいという考えは出てこなかった。また、見通しを持って学習に取り組むことや、自分の考えを明確に表現して相手に伝えることを苦手としている児童もあり、ビデオレターの作成には時間がかかった。

3 ESDの視点に立った学習指導について

(1) 教材について

本単元は、ビデオレターの作成や交流を通して外国とコミュニケーションを取り、お互いの文化を理解し、尊重し合うことができるようにすることをねらいとしている。外国語活動と関連付けて学習を進めるだけでなく、言葉が分からなくてもジェスチャーや写真・動画等を用い、自分の思いを伝えようとすることで表現力を高めることもできる教材だと考えている。これまで児童は、「アメリカ・ビデオレタープロジェクト①」のビデオレターによる交流の成果を10月の祖父母参観で発表し、11月に入ってからシカゴのホームレスの子ども達を支援している組織のChicago HOPES for kids（以後、HOPES）からのビデオレターを読み解き、相手のことやメッセージを理解してきた。次に、「何を、どう伝えるのか」ということを最も大切にして撮影計画を立てることができた。また、国語科や社会科、道徳と関連を持たせて学習を進め、児童に「世界の中の日本」を意識させて学習を進めてきた。

(2) 持続可能な社会づくりとの関連

今後、日本はさらなるグローバル化が進むことが予想される。そこで、外国人と積極的にコミュニケーションをとり、異文化を尊重し、お互いを理解し合うことが必要である。本単元では、ビデオレターの作成を通して自主的・計画的に学習を進める力を身に付けさせるとともに、国語科の学習で「未来がよりよくあるためにはどうすればよいのか」という課題について、自分で調べたことや考えたことをビデオレターで表現し、前回よりも一歩進んだ交流をさせたい。これは、「持続可能な社会づくりの構成概念」のうち、「I多様性」にあたる。また、世界の人々と協力して様々な問題を解決したり、よりよい未来を築くために協力したりして生活する必要があることに気付かせたい。これは、「V連携性」にあたる。さらに、相手意識を持って自分の考えを積極的に伝えることや、進んでコミュニケーションをとり、よりよい未来のために自分から行動を起こすことの大切さにも気付かせたい。これは、「VI責任性」にあたると考えている。

(3) 本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

ビデオレターで「何を・どのように」伝えるのかを考え、撮影計画を立てて取り組むとともに、より分かりやすく伝えようとする力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

ビデオレターの読み解きや作成において、友達と考えを交流し、自分の考えを深めるとともに協力してビデオレターを作成しようとする態度

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

HOPES との交流を通して、外国との関わりに関心を持ち、お互いの文化を尊重しようとする態度

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度＞

ビデオレターの撮影に計画的に取り組み、自分達の考えを表現し進んでコミュニケーションを取ろうとする態度
これらの能力・態度を育てるために、本単元では次のような点に留意して指導を進める。

- ① 作成した絵コンテやビデオレターをお互いに見合い、話し合う時間を十分に確保し、HOPES に自信を持って自分達のメッセージを伝えることができるようにする。

- ② 相手意識とビデオレターのメッセージを大切にし、撮影計画を立てることで見通しを持ってビデオレターを作成することができるようにさせる。
- ③ 国語科の「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう（未来がよりよくあるために）」、社会科「日本とつながりの深い国々」、道徳「平和な世界のために」・「地球を守るために」と関連させて指導を行い、児童に「世界の中の日本」を意識させる。

4 単元の目標

アメリカとの交流を通して、異文化を尊重し、進んで外国と関わろうとする態度を身に付けるとともに、ビデオレターで自分の考えを分かりやすく表現することができる。

5 指導計画と評価規準（総時数23時間）

段階	主な学習活動 (時数)	多様な観点と見通し (学習方法)	交流と協力 (他者や社会)	つながり (他者や社会)	主体的・計画的 (自分自身)
課題の設定	<ビデオレターを読み解こう> (3) - HOPEs の活動について調べる。 - HOPEs からのビデオレターを見てメッセージを読み解く。	HOPEs のビデオレターを見て、分析的にメッセージを読み解くことができる。	ビデオレターのメッセージを自分なりに考え、友達の意見も聞きながらメッセージを読み解いている。	外国とのつながりを大切にし、アメリカの文化や習慣を尊重することができる。	
情報の収集	<伝える内容を決めよう> (6) - HOPEs からのビデオレターの内容や学習したことをもとに、次のビデオレターで伝えたい内容を話し合う。 - 伝えたい内容をもとに、絵コンテを作成し、撮影計画を立てる。 - 絵コンテの発表会をする。	ビデオレターで何を伝えたいのかというメッセージを明確に持ち、どのような内容を撮影するのかについて考えている。 相手意識を持ち、ビデオレターが分かりやすくなるよう工夫して絵コンテを作成している。	今まで他教科で学習してきたことや、考えたことをもとにして、ビデオレターでHOPEs に伝えたいことを話し合うことができる。	外国の人々や社会、自然等とのつながりを大切にしてビデオレターの内容を決めることができる。	発信につながるよう考え、ビデオレターの絵コンテを作成したり、撮影の順序を考えて撮影計画を立てたりすることができる。
整理・分析	<ビデオレターを作成しよう> (12) - 絵コンテをもとにビデオレターの撮影・編集を行う。 <本時> - 中間発表会を行う。 - 反省を受けて、ビデオレターを修正する。	カメラワークの違いを理解し、メッセージをより分かりやすく伝えることができるような映像を撮影したり、ビデオレターを編集したりすることができる。	友達と協力しながらビデオレターの撮影・修正をすることができる。	外国の人々や社会、自然等とのつながりを大切にしてビデオレターを撮影したり、編集したりすることができる。	見通しを持って、進んで役割分担をしながらビデオレターの撮影をすることができる。
まとめ・表現	<今までの活動を振り返ろう> (2) 5年生と一緒にビデオレターの発表会を行う。 - 活動の振り返りを行う。	作成したビデオレターの良かった点や、来年度に生かせる点を話し合い、考えをまとめることができる。	ビデオレターの感想を交流し、友達と協力してビデオレターを作ることができた達成感を味わうことができる。	ビデオレターによる交流を通して、外国と協力したりコミュニケーションをとったりすることの大切さを理解することができる。	作成したビデオレターを見て、良かった点や来年度に生かせる点について、自分の考えを持つことができる。

6 ねらい

前時までに撮影した映像を見て、メッセージをより分かりやすくするにはどうすればよいのかについての考えを持つことができる。

7 指導過程

段階	学習内容・活動	時間	○ 指導上の留意点 * ESD の視点に立った留意点 ・ 評価 <ESD で重視する能力・態度>
導入	1 前時の復習をする。 2 本時のめあてを確認する。 ㊦ 映像を見合い、メッセージをより分かりやすくするためにどうすればよいのかを考えよう。	5	○ ビデオレターの一部を大型ディスプレイで流し、白方小にどんなメッセージを伝えたかったのかを確認する。また、伝える相手の気持ちを考えることができるようにさせる。 ○ よりよい未来について考えたことや、調べたことを伝えることで、さらに交流が深まることを確認する。
展開	3 ワールドカフェ方式で話し合う。 (1) 映像を見合い、付箋に考えを書いて話し合う。 ・ 環境 ・ 平和 ・ 震災 ・ 食べ物 ・ 伝統文化、日本の習慣 等 (2) 隣のグループへ移動し、映像を見合い、付箋に考えを書いて話し合う。 ・ クローズアップを使うと強調できる。 ・ セリフの強弱があると良い。 ・ 早口過ぎて伝わらない。 ・ 音楽はどんな曲が合うのかな。 ・ 強調したい写真はもっと長く見せたい。	20	○ 5つのグループのうち(5人グループ)、映像を見てほしいという申し出があった3グループにそれぞれ映像を発表させる。班員5人のうち2人が発表者となり、残りの3人は訪問者となって他のグループの発表を聞き、付箋にコメントを書かせる。残りの2グループも訪問者となり、発表を聞きに行かせる。 * 訪問者には、「相手意識を持ち、自分達のメッセージをより分かりやすく表現するにはどうすればよいのか」という視点で映像を見させる。また、発表者には、見てほしい観点に沿って話し合いを進めさせる。 <多様な観点と見通し> (付箋の色・赤：よかった点、黄・分らなかった点、青・改善点・アドバイス) * 意見を書き終わった児童から順番に付箋を貼り、話し合わせる。 <交流と協力> <多様な観点と見通し> * よかった点と工夫するとよい点それぞれに理由を付けて話し合わせ、分析的に映像を見ることができるようになる。 <交流と協力> <多様な観点と見通し>
終末	4 自分のグループで話し合う。 (1) 付箋の島分けをして意見を整理する。 (2) 全体でよかった点と工夫すると良い点を発表する。 (3) グループで今後の計画を確認する。 ・ エコキャップを集めているシーンの写真を増やして、もっとくわしくしよう。 ・ インタビューの映像を撮影しよう。 ・ アメリカについて調べたことを生かしたい。 5 学習を振り返る。 (1) 本時の反省を振り返りシートに記入し、感想を伝え合う。 (2) 次時の学習内容を考える。	15	○ 訪問者のみの2グループには、前時に行ったワークシートを使い、自分達に生かせることもメモさせる。 ○ 児童から出された工夫や改善点を板書する。他のグループのアイデアもどんどん使って良いことを伝える。 * 今後どのような点を工夫したり、気を付けたりして撮影するのかについてグループで確認することで見通しを持てるようにする。 <交流と協力> <主体的・計画的> ・ 映像を見合い、メッセージがより分かりやすくするためにどうすればよいのかについての考えを持つことができたか。 (発表・ワークシート) <多様な観点と見通し> ○ 振り返りシートで簡単に自己評価をさせる。 ○ 1～2名に感想を発表させ、学び合いの良さを実感させるとともに、称賛することで次時の意欲づけを図る。 ○ 自分たちの行動は、持続可能な社会づくりにとって大切なものであることを自覚させ、次時の活動につなげる。

<本校教職員一覧>

職 名	氏 名	担 任 等
校 長	内 山 博 行	
教 頭	善 方 威 浩	
教 諭	笹 島 明 美	教務主任
教 諭	相 樂 佳 代	1 学年
教 諭	滝 田 美 智 代	2 学年
教 諭	久 保 田 淑 恵	3 学年
教 諭	吉 田 貴 子	4 学年
教 諭	富 田 優 美 子	5 学年
教 諭	福 本 拓 人	6 学年
講 師	松 井 恵	特別支援学級
養 護 教 諭	安 齋 節 子	
主 査	佐 藤 広 行	
主任栄養技師	矢 吹 真 由 美	
用 務 員	円 谷 秀 生	
支 援 員	渡 辺 久 美 子	
本 校 A L T	フィービー ラブレイン	
初 任 者 研 修 拠点校指導教員	平 田 幸 一	須賀川市立仁井田小学校

<ご支援いただいた方々>

古田 浩様（前本校校長 現須賀川市立仁井田幼稚園長）

坂本 旬様（法政大学キャリアデザイン学部教授）

関 芳理様（岩瀬中学校教諭 英語科担当）

ミミ エバンス様（岩瀬中学校 A L T）

日産財団



「もっと素敵な白方小がある！

きっと素敵な白方小になる！！」